



代表理事 高井啓太郎さん

自身も5歳からキャンプに参加し、野外活動センターでの勤務などを経て「ほんまものの自然体験」を子どもたちに感じてほしいと、のあつく自然学校を設立。現在は会員数2300人を超え、新たに名古屋校も開設した。

主役は、すべて子どもたち！
「ほんまものの自然体験」を提唱

1992年に誕生した「のあつく自然学校」は、大阪・兵庫・岡山・名古屋を拠点に活動する自然学校。0歳からの野外教育を推進し、一過性のものでなく生涯学習としての教育的キャンプを展開しています。

しっかりとリスクマネジメントのもと、「自然の中では雨風にさらされることもあります。子どもたちには人工的な体験ではない『ほんまもん体験』を実施しています」と、プログラムディレクターの小見山友里さん。0歳からの「森のようちえん」や「お魚倶楽部」などの年間プログラムのほか、長期休み

キャンプなどプログラムも多彩です。オスズメは「のあつくDASH村」。岡山県津山市にある築130年の古民家で過ごす1泊2日の田舎体験です。田んぼで泥まみれになって遊んだり、ロープクライミングで動き回り。そんなプログラム内容を考えるのも、畑を耕して野菜を育てるのも、ダッチオーブンやピザ窯で料理するのも、すべて子どもたち。年8回実施しています。

また、海外プログラムとして、本場カナダで行うスキースクールも開催しています。一度行ったらきくと忘れられない思い出になるはず。詳細は問い合わせを。

体験プログラムがいっぱい！

自然学校
通信



大阪府

のあつく自然学校

一般社団法人 のあつく自然学校
大阪府枚方市村野西町5-1-306
Tel. 072-805-3230
http://www.noac.jp/

折れた木の第2の人生

白川郷といえば、冬に平均3mの雪が積もる日本有数の豪雪地帯。雪がたくさん積もりすぎると、森の中である異変が起きます。雪の重さに耐えきれず、木がバキバキと折れてしまうのです。降ったばかりはふわふわな雪が、だんだんと時間がたつと締まって重くなっている、最後はまるで氷のようになってしまふのです。

折れた木と聞くと、道を塞いでしまったり、動かすのが大変だったり、良いイメージがありません。しかし、この折れた木が、薫製のチップとして生まれ変わることができるのです。一般的に薫製に適していると言われチップとして



薫製に使うチップ



森の香りを楽しむ



ダッチオーブンで作ったチーズの薫製「いただきます！」

て市販されている木の仲間が、ここ白川郷の森にもたくさんあります。ナラやクルミやブナといった木の実をつける木や、見て楽しめるサクラやカエデと言うと、わかりやすいでしょうか。それらの木々で薫製のチップを作るには、折れた木を森で見つけるのがいちばん難しいかもしれません。運良く折れた木を拾ったら、あとはその木をナイフでちよつと厚めのかつお節を作るイメージで削っていきます。お鍋やダッチオーブンでチーズやソーセージを薫製するだけなら、ひとつかみも削れば十分です。折れた木や落ちていた枝も見方を変えればこんな楽しみ方もできます。みなさんもぜひ、森に行ったときに折れた木を拾って、薫製を楽しんでみてはいかがでしょうか。

トヨタ
TOYOTA Shirakawa-Go Eco-Institute
白川郷自然学校

白川郷
フィールドノート

インタープリター
佐藤翔太郎



協力／トヨタ白川郷自然学校
岐阜県大野郡白川村馬狩223
Tel. 05769-6-1187
http://www.toyota.eco-inst.jp